

「自分のことと周りのことを考えれば」

長池小学校 6年（当時） 坪井 晏里

私は社会を明るくするにはどうしたらいいだろうと考えたとき、自分のことをふかく考えたらいいと思いました。自分のことをふかく考える、それがどのようなことなのか、私なりに説明したいと思います。

まず、私が考えたことは自分がされて嬉しいことを相手にもするということです。自分がされて嬉しいことってありますか。私は友達が話かけてくれたときです。私はそれが嬉しかったので、私も自分から話しかけたら相手も嬉しいんじゃないかなと考え、私も話しかけてみました。そしたら相手は笑顔で話してくれました。このように、自分がされて嬉しいことを相手にすることで、どんどんそれがひろがって世界の人々が嬉しいを感じれて、嬉しいを教えてあげることができると思いました。これが良いウイルスのように広がれば、きっと社会は明るくなるんじゃないかなと思いました。

次に、相手に関心をもつことです。

デモって知ってますか。簡単に言えば人の言ったことに反対することだと思います。外国はデモが多いです。日本では少ないですよ。デモってあまりよくないことだと思います。でも、少ないのもよくないと思うんです。理由は人の意見に関心をもてないということにつながると思ったからです。時には反対をして、みんなできちんとしたルールをつくるのが大切だと思ったからです。他人のこのようにみないで関心を持つことが社会に、人に必要だと思いました。

次に、一人一人が幸せを感じる必要があると思いました。本当の幸せって何だと思いますか。私は生きてることじたいが幸せだと思うんです。でも、ほとんどの人は、おいしい食べ物を食べたり、行きたい場所に行って、やっと「あ～、幸せ。」って言うんです。こんな近くに、幸せがあるのですから、当たり前を当たり前と思わず幸せとを感じることで、世界は幸せと言う感情にあふれ、社会を明るくにつながると思いました。

最後に地球をきれいにする必要があると考えました。身近にあるゴミ、ちゃんと捨てられていますか。現代でも、ポイ捨ては多くて、地球が完全にきれいにできていないのではないかと考えました。よく考えてみてください。地球には住まさせてもらってるんです。それにポイ捨てや、落書きがいけないことって言うくらいわかんと思うんです。なのにしてしまうと言うことは、ちょっとくらいいいんじゃないかと言う気持ちがあるからだと思います。周りのことを考えれていないんだと思いました。一人一人が周りのことを考えれば、地球を完全にきれいにするのが可能だと思います。

これら四つの考えから、自分を考えて、周りのことを考えることで、社会を明るくきれいに、そして自分を大切にできると思いました。これが私の考えた社会を明るくする方法です。